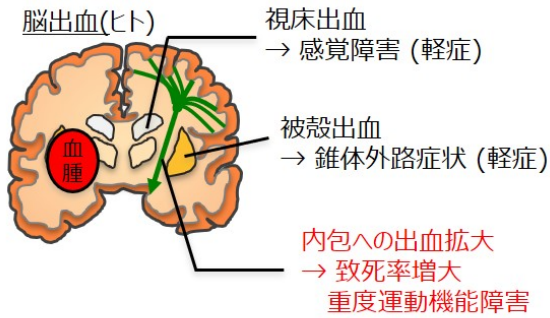


脳出血治療薬候補の前臨床試験のための病態モデルの作成と解析

教授・香月 博志

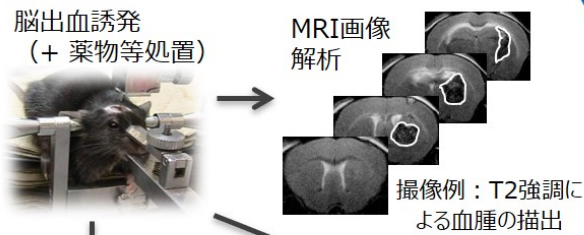
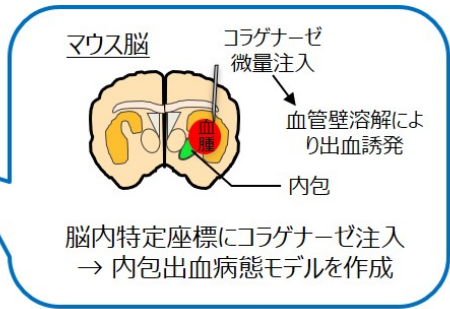
大学院生命科学研究部 薬学系 薬物活性学

▶ 研究内容

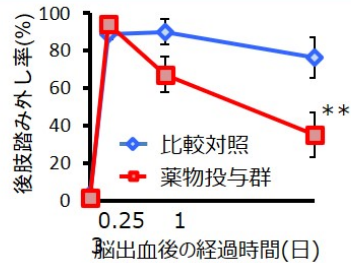
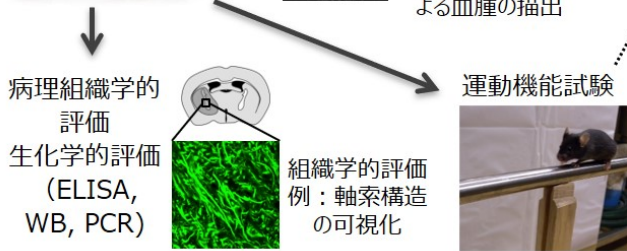


- 脳出血は主に被殻や視床における脳血管の破綻により生じる
- 出血が被殻や視床から内包領域に拡大すると症状が重症化する
- 脳出血治療薬の開発のためには適切な動物モデルが必要

ヒト脳出血の重篤な病態を反映するマウス病態モデルを多角的に解析



治療薬候補化合物の作用を運動機能試験で評価



▶ 提供できる技術

ヒトの病態に近い特性を有するマウス脳出血モデルの作成法と薬効解析法を提供 被験薬の作用プロファイルに関して多角的な情報が得られる 若年齢 8~10週齢 と中年齢 12~13ヶ月齢 マウスで安定したモデル作成が可能

▶ 参考資料

PLoS One 8:e67691, 2013. J Neurosci Res. 92:1024-1034, 2014. J Pharmacol Exp Ther. 360:399-408, 2017.

▶ キーワード

脳卒中 後遺症 薬理試験 病理解析